

企業ニュース 小野薬品工業

(東証プライム: 4528) <https://www.ono.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

「オプジーボ」が主力製品、がん領域に強みを持つ創薬企業

1717年、伏見屋市兵衛商店として創業。1947年、小野薬品工業を設立。免疫チェックポイント阻害剤オプジーボ点滴静注（以下オプジーボ）が主力製品、がん領域における医療用医薬品の中堅創薬メーカー。2014年7月に悪性黒色腫を対象に治療薬として承認されたオプジーボは、がん細胞が人の免疫細胞の活性化を抑制する作用を阻害する薬で、その作用メカニズムは本庶佑・京都大学特別教授の研究に基づくもの。この研究により同氏は、2018年のノーベル医学・生理学賞を受賞した。オプジーボはブリストル・マイヤーズスクイブ社に導出され、同特許に抵触する製品を販売する競合他社からも含めロイヤルティを受け取っている。2021年11月には胃がんを適応症とした第一次治療薬の承認を取得、使用が拡大している。オプジーボの拡大が当面業績をけん引しようが、2031年には特許切れを迎えるため、今後の創薬活動が注目される。

◇オプジーボの主な開発状況
(国内/一次治療)

がん種等	臨床状況等
胃がん	2021年11月承認
原発不明がん	2021年12月承認
食道がん	承認申請
大腸がん	第2/3相試験
肝細胞がん	第3相試験
尿路上皮がん	第3相試験
膵がん	第2相試験

(注) 22.3期決算発表時

(出所) 小野薬品工業資料よりCAM作成

オプジーボの適応拡大が業績伸長をけん引

22.3期の連結業績は、売上収益が3,614億円、前期比17%増、営業利益が1,032億円、同5%増。後発品使用促進策の影響を受け長期収載品は低迷したが、オプジーボをはじめフォシーガ錠（糖尿病等治療薬）、ベレキシブル錠（抗がん剤）など多くの主要製品が伸長した。営業利益は研究開発費や販管費などの費用増はあったが、増収効果で補った。ロイヤルティ収入増も増益に寄与した。オプジーボは競合他社製品との競争が激化する一方、非小細胞肺がん・胃がん一次治療や、食道がんにおける使用が拡大した。

23.3期連結業績の会社計画は、売上収益4,250億円、前期比18%増、営業利益が1,450億円、同41%増。オプジーボの製品販売が1,550億円、同38%増。非小細胞肺がん、胃がん一次治療での伸長に加え、尿路上皮がんの術後補助療法や原発不明がんなどでの拡大を見込む。フォシーガも糖尿病に加えて慢性心不全、慢性腎臓病への使用拡大を見込む。積極的な創薬活動を進めるため、増加する研究開発費も織り込んだ計画。想定為替レートは1ドル110円。

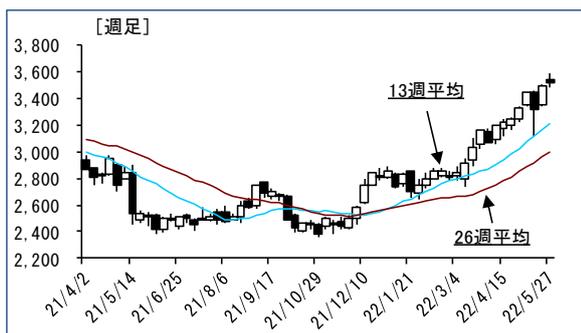
[株価動向・投資判断]

2031年以降に迎えるオプジーボの特許切れへの対応は長期的な課題だが、当面は適応拡大に伴う業績伸長が期待できよう。為替想定も保守的で上振れ期待が持てる計画。

<4528 小野薬 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.3	309,284 (6)	98,330 (27)	100,890 (27)	75,425 (26)	151.1	50.00
22.3	361,361 (17)	103,195 (5)	105,025 (4)	80,519 (7)	162.2	56.00
23.3 予	425,000 (18)	145,000 (41)	146,000 (39)	110,000 (37)	225.3	66.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2022/5/27)	3,511 円
年初来高値 (高値日)	3,586 円 (22/5/23)
同 安値 (安値日)	2,637.0 円 (22/1/25)
予想 P E R (23.3 予)	15.6 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,343.4 円
P B R	2.61 倍
予想配当利回り	1.88 %
(1株当たり配当金 66.00円)	
R O E (22.3)	12.5 %
発行済み株式数	51,743 万株